


[illegible][illegible]


武勇の譽
 勇有り超ふんじすす仰うか一ッ助けに
 思召しておとと闘ひますて殺さない
 だか依田與方衛門が兩つを討て四名の
 (州七回) 本社 井竹紳 購價
 員速記

在 本 光 三 庫
 同 署 丁 庫
 餘 興 隆 號 託
 清 水 岡 南 康 廣
 其 船 隻 人 是 按 自 來
 中 央 大 學 附 屬 長
 南 洋 行 往 來 各 埠
 本 申 益 所
 甚 大 方 何 不 同 中 心 可 增 設 或
 寄 贈 申 益 御 披 露
 一 銘 酒 一 樽
 發 起 人 一 同

波に關する指圖を郵船に送らうと云ふ
 こと、政府の意は頗る慎重にして、政府會議を待たずして
 日韓二國より改定調書會と開き、左向きの左
 事項を研究することに決定し更に分派員
 一農商工美英蘭に關する事項

●**元山近信** 此報元山方面より歸來
 たる某氏の談に依れば、元山附近の農桑、尤
 附近一帶地味肥沃にして、元氣頗る興隆
 を現す、近來日本人頗る茂業し、土地の買
 入者多し、自下は一坪の價銀わに

●酒 ●其角 三ッ邊

之れは罪過を軒輊するに準ず。東南類と
 巴風。角と云ふて切あり。東南類
 夕顔に我は飯増ふ勇哉
 と其角圓う所なきし。晩年自ら師の
 と口圖して彼ふしと云ふ。
 其角を導ひて其の神。傳はに薪村なり。句
 高遠天底の空と行くか如し。
 賴走る。友切九年時鳥
 關王の口や牡丹を吐かんと云

典之是始りまして御意得ます佐田典左衛門と申す不肖もの僕見知りおかれ御意意願ひます 大「なんだ何用で來つた 萬治寺の町へ不覺の一條につまきして罷り出さな召遣ひせもの申すには主人は主人に不承不承引つて這との御沙汰真左衛門不承不承強縁を抱きさまより越しました御辨下まおかれませうならば千万忝じけなとさる 大「我れは五奉行家頭石田の來御身は誰の家來だ 與何うか生命の是御御膝を顧ひたれどもは石田治三郎三成の家とされどもは石田治三郎三成の家

は、興・アイヤ各々一はらく今此の處におゐて果し合をいたしては當家の主人が其花は花鉢をいす、則ち尋常の勝負を當地芹咄ヶ原に於いてなすでござんう。大なるは過るナ、と申し、はらば、おれを免す事か、と云ふ。興之は怪し、はらば、應に難き事、伏して待たつらんと、明日の約束を、興左衛門兵衛に歸つて来た二太の若衆が、大さく、おめが、二、三回も、日那樂、に申し舞ひ、いゝ女を、そんぐし、と、いゝらうと、を、いゝめに、飛ん、舞、を、見、ました、興

島田希賢 中田希賢 原田希賢 上田重太郎 山田新太郎 成田新太郎 小倉貞治 高田萬治 石原萬治 今村保太郎 近藤春太郎 澤田精太郎 白田喜太郎 內山守太郎

●新紙從速處
惠比壽E-1、數箱大方錦束甚
二祥食百人分

樂廣

釜山音樂會

雅集

●韓國貨幣の變遷
韓國貨幣在東亞の結果大坂幣局より兩國
貨幣と併發するはし但既報の如く是るの新
紙大韓省は舊國幣へ邊境を以て兌換金貨
着手せしめして其種類及枚数は
貳拾圓金貨五萬圓、五拾銀圓貳萬五拾格
圓、拾銀圓貳百五十拾圓、五錢白銅二

大なる利を得る支那人は漸次と増殖し
 日公の軍隊に供給しつゝあり又米國と連
 手あり林檎を取寄せて製造せしに其數
 良好なり一箇内にして年二千箇以上の收
 穫に達つゝ又といふ林檎の類には
 既に満つゝあるといふ月口 元祖の人家は約千
 にして人口四萬なるが故に本邦人の入は
 りの多きを以て豪傑欠乏の有様なれば皆
 上と稱して利益を獲法と思ひ立つものあり
 二十の日後に國五條特任官官制貳拾餘人
 あり

● 治々浪々録 (平三) 創刊

▲ 良妻賢母は主度附べり、否吼と集り、

今頃...
 選品質醇良東洋無二
 壽...
 ノ通りニ候間倍舊ノ
 上候

百參拾萬圓
平七拾萬圓
茶平

高橋ト特約仕リ原料精
高橋ト博シタル惠
田今西ノ兩商店モ從前
御用命仰也被付度奉

御身の主人は誰だといふに、本名は名乗れ
とはなした人の主人の姓名をきゝ我が子
ハ姓名と名乗るゝが出来なないといふリ
ナ勝手があらかるソナおでんの口をき
き来たるの白痴ヲ興しけらす申し
片桐正勝の家来ございます 大片
の家来だじやア目元つれて来い勝元が
ハら取捨してるゝ奥之は御覧ひれで
うか只管與左衛門御託を 太貴様か説言
さかん目元つれて来いといふのだ
主人目元が御託に ませう等がございます
只管與左衛門の御託をいたします 大

植文活版見習
右至急募集す
（十四歳以上
十七歳以下）
三名
四名
廣告

佐須主原總時刻
開會の時刻
四月貳拾參日午後一時勸行
會費紀章

青森、秋田、山形、岩手、宮城、福島、
新潟、長野、群馬、栃木、茨城、千葉、
埼玉、神奈川、東京、北海道、

國遊會會場

尾崎 仁助
佐々木光三郎
高田 武助

合計七百五十萬圓
にして此中最も急要なるは白蟻炭にして、
接運備に急ぐの點より第一卷子製造廠設
りて

●釜の鎮山牧場開拓
釜の鎮山牧場は、釜山事業として開拓の
牛飼養に於ては鎮山事業として決定せられ、
て是等牧場の事業と經營する爲め海軍
鎮山技師を雇用せんとて政府府は、
來りたるより農商務省は、は目下其人
中なり

●城、鎮除の東航、の海船

行、造物の微つゝみ、人達の光の到達云々
や、造物の光明何處にありや、世は是れ
金万箇の結代をもとに非らずや」阿んがす
「金万箇なりや
「何處なり、然るに今の世は人間の社會
の光の到達云々」
「是れは也、一に云うては君の非難に答
ふに非ず、若し或は今の社會と人間の
會に非らずと問ふん、則ち若し一人の
人も歸じざるのやに至つては如何
▲皇女が曰く「是は是れ武力の專制時代
今世の專制時代なり云々」是より
と進めたる富の專制時代、足下は阿んが
と進めたる富の專制時代、是の論議な

此の酒は、其角を以て般若尊となすべし。此人性善にして、剛健を顯さず。將を以て生業とし、佛の精進者流の俗物を學びて、博家と稱する事とこそす。常に塵に溺産を憂へ居るおれは、飲み且つ談ひ勝へば興に任せ句を吐けり。故に句格高く、詞體に類天竺として、世の俗衆を正めず。徳の人々に負

釀造元


本多
 近時俳句と稱して中村爲山、下村爲山、
 播磨所其情と集めてある。
 俳
 藤堂は美人立ちもけり春の面
 春雨に人形のやみ紙付けし
 春風に才立人の家
 春風を吹流す家

殆そ氣支ひはない無益なことだ。聞れば老成
 隨いて居られないから二人旦那様くしし
 も先刻参りました時に貴様の主人をつつ
 て来れば脱解してやらうと思つてしまし
 コーして主人が来て了願のでございませ
 うか御機嫌を便り。大抵まだ貴様の主人は
 一人生んでもゆるすきつかいはない。時
 計をしても二人が来ては御機嫌が出来る
 大なるにせつて来いといつた。いまつて
 いて居れば不禮うとなふ。二人不禮とい
 なんだ典、コソしづばな何うか。何ん
 もに御機嫌を願ひます。何うしても脱解

見よ「朝鮮」第十號
器械据付中体刊の「朝鮮」は來
る拾七日新紙を疑し發行可致
候間此段愛讀者各位に謹告仕
候也

大 郎

朝鮮新聞社



北

[illegible]

其儘の消息は未だ判明せざるも新嘉坡に
香港迄の距離千四百廿五海里に於て一時間
船の速力を以て推察せば五六時間にて香
港に到着するに違なきも従果して香港迄沖
線するものこそは同様に七時間までは僅
一日程のみ、且下本流線船の諸諸國へ往
するものより尤も航路安易が普通と見
べきも香港に於ては殊に其の利便を
得るの點を以て觀て大船にて其の便を

傳の編輯に關せり。當の編輯時代は文藝
學として一の精神也。

「天下佳しんで曰く」「吾人は衣食住に生
て生活すべきもの也。而かも此の衣食
をも得ざるものあり」云々、衣食住を
論ずるものにして、尤も其の要なるものは
衣食なり。然れども衣食だけでは不十分
なり。衣食住を度量したるが如き事あり

の事なり。衣食住を度量したるが如き事あり

如き時、時勢の佳興に成るもの宜敷
 野氣香、鈴鹿底、赤坂、嵐山、下の徒の操、
 本當は物體の人なかしも、若多し海は、
 其に其分、空放の歌、く、結、
 其の初と、
 野氣香、鈴鹿底、赤坂、嵐山、下の徒の操、
 本當は物體の人なかしも、若多し海は、
 其に其分、空放の歌、く、結、
 其の初と、

[illegible][illegible]

博多
大
醬油
大
店商屋

-283-

出展品として出品
 如し
 該所附屬あり
 館に展示に當へり
 必ず其宜しき
 十日午前九時三十分鐵館之離宮出門吉田接
 迎兵工廠參觀 韓國大使義陽君殿下には
 上の休憩室
 各局係を總て
 後松尾總督其他重役諸氏の
 休憩を
 相模鐵
 放し對
 大演
 午
 二時
 定座
 演劇

遊藝場には許可を受けたる日
の遊藝場を開業の際
入票並に入券油料金は輸入都
府は免却する際
は落札を都府
の徴収民は既に於て納付告知
の各納付人に於てすべし
の典美定座
立

分、安達、國崎、清伊、瑛、白富、黒原
 伯田、岡部、森公俊等、寄附料、宛に招待状
 發給し、催へらる。

- ▲華族講習會、華族會館は維新國家通文
- と舶の在京各華族諸人、海軍大臣、二日山
- 下町の新華族會館大禮堂を招き、晚餐會を開く
- 由當該は各議員、勿論出席公使、同僚議員も
- 列席したる。
- ▲外務大臣會餐、小村外務大臣は十一日
- 午後七時三十分、日本旅館一軒井戸公會趙氏
- 照田館員及び我妻義教上巻の水邊町官邸

▲日本銀行參觀、津南大使謁君殿下は十

第一期	其年四月廿一日より四月廿五日限
第二期	其年六月廿一日より七月十五日限
第三期	其年十月廿一日より十一月十五日限
第四期	其年十二月廿一日より一月十五日限

以上四分限額金び月分を(毎月)一現
 在、毎月廿五日限

熟練飲食店船内衛生課會議決議辦理
 事務特別進船乘船檢査費金を除く車往
 料理店市場及足席の徴収率は第一號に

定席以上乗艇中は毎月十日限り
 定席以下に乗艇中開港する船舶爲り出で

然に發達を遂げ、事とは是れ實に帝國の
喜びである兩方の發達を希望す。朝鮮國の
御引立てなる方、
氏が演説中時々手を以て腹に置く、
但しは猶か一寸奇な言葉、
長々「コリン、君はコリン」として過つた
ある演説をなすも、
ある兩面的人物を對し、
釜山港に臨み、
ある俱樂部にあらま、
すす買一日韓、
ある盛んな事である、
諸君は「朝鮮國」に於て大御を得て、
愉快の聲、
種々々々、
村岡國公使、
第一條、
居留地税金は、

[illegible][illegible]

註冊金は市産に對し年額一千圓以内
特別國庫券(本邦)支拂部は一年額百圓以内
海關三、四開張以内、生利金四百圓以内
遊樂場三、四開張以内等年額百圓以内
總公告知書は納付本日より七日前
五時までに申し渡し毎月彙算の期をももて
五、六日とし

除各納付人は納付告知書に依り恒定
の期限内に其現金を添へ替附地收入役
務所並に領收書を發せんとす
餘年渡中新たに納付義務を生じたるもの
は該年度分より月割にて納せしむるべし
然る年中中途の廢止又或變更したるもの
と雖も既に納めた金は没収せずとも
但當月迄效に於て尙殘金の餘額を以て
還したるものは其残額に納めず過納餘
額は納付人に歸するべし納付義務は
再納められぬに依り納付したるものと
爲す

東關東北人の學藝會と博覧會 來 廿二
日龍頭山に於て開行する可き東北大懇親
會には下左件は之を辭し男女ともに關東北人
會員入會し得人を要せよとの事なり
小學校の遠く運動 同年の如く本月中
亦有希望運動會を開辦する筈なりしが都合ひ
不足運動を爲すことに決定来月上旬に於
て實行する由なり
夜學塾設備 當港小學校補習生徒の爲
めに近々仲より夜學都を開設し監事の科目
を教授する由
大體消會 目下青年會役員は於
「富饒」なれつゝあるや大體消會は有力
者の賛成もあり來月初旬に於て會を實行行
ふにぞ上下は五數ありて既に借掛け上
結了したりと云はれ南濱三任の二強を來月
讀む事と決定せられたるが猶ほ又久保病
院及び廣田の病室などがあるから以上本

[illegible]

●二會社三銀行大運動會 ●春色今酣にして
旬阳の夜は落花飛絮を舞ひて發するも及び難けり
其時なり於て當地會社の第一五十八、十九の
三銀行員及郵船商船の二會社並同一大運動
會と草堂茶山鎮の邊に備すべく有志同に計
畫中なりといふ或は京釜鐵道會社員も併合
大會を見るに至るべし

●二會社三銀行大運動會 ●春色今酣にして
旬阳の夜は落花飛絮を舞ひて發するも及び難けり
其時なり於て當地會社の第一五十八、十九の
三銀行員及郵船商船の二會社並同一大運動
會と草堂茶山鎮の邊に備すべく有志同に計
畫中なりといふ或は京釜鐵道會社員も併合
大會を見るに至るべし

[illegible]

れば又増加する事兩年の通りなりといふ
 ●朝報毎日新聞再刊 同新聞社は器械破
 損のため數日前より休刊中の處修繕をし
 たるとして明日より再び發刊する由
 ●總編輯官 還手 別項記載のキレト去歲
 酒賣の還手は既に十名程より猶ほ十數名を
 募集する由なり
 ●米販の準備 近々夏期に向ふものゝ
 水戸、下野の米賣は多くなるに就て昨今和
 右衛門に頼頼するもの多し

廣 告

四月十八日ヨリ本館
 御隨意

釜山日本商會會館所附屬
 日本商品陳列館
 本館製造依頼ニ應ス

時へ出張中なり。當船の受渡しを結了したるを以て朔二日に歸釜の客なり。同渡船は五十噸の蒸氣船に、船客共五十二人、又船長、元來後渡船會社の仁川鐵橋工間の技師に當り、當長崎船尾工所に注文せしものと、昨年七月頃進水せし新渡船なりと云ふ。

當地沖に同濟店にては或航路に使用する目的を以て、蒸氣船を輸入する爲め輸出登録氏舞へ下坂中なるが不相當地に回航するに際正なる由。

朝鮮に於ける其の減少、當に定立病院醫の缺員に依りて昨年来、精神の弛緩頗る増加し、一時は兩重國員の有様なり。其の昨に至りては、患者の減少したるが來月に至

船運の盛衰は、
 需要と減少したる由なり
 山林、礦業、渡輪、農商務員二十余名
 が渡輪したるに、居り、山林、礦業の爲め既に
 東京出發したる由にて、今日中に來す
 草壁の新聞、京事務所、今回出口新聞補を
 經て、大阪、毎日、初め諸新聞の取次と設け、
 人あり
 櫻井、技師の來、東京陸軍糧秣廠、
 神田區に來、郵政の當、東京陸軍糧秣廠、
 水中に來、水産組合、
 佐清、船は巡邏船、爲め、航來より、
 水産組合の巡邏船、當水産組合長、

●期定時間と京金相場
 盛岡・酒・蟹・牛乳などは冬期時間に過
 延する。秋收り期なる由とが猶ほ幾一箇
 所の産地と近・中に客寄すべしとの事なり
 ●綿花の販路に就て
 巨港港に於て綿
 花製造の業に従事するもの六人わが昨年
 は冬期御暖なりしにも係らず該品の販路頗

[illegible]

灘

新

陸續御來觀ノ程奉寄御意

在大坂

四月十一日

演

座長

客員

櫻木

石上

秋田

三好

岡本

光城

龍馬

清水

一

桂次郎

不朽

西島大

-284-

電報 海軍 朝鮮日日新聞 福間日日新聞
東洋日日新聞 長周日報 門司新聞
右何れを定價にて迅速且正
確に配達仕候間大坂毎
日新聞の郵便よりも一日
早く着仕候
幸町一丁目
二拾三番地
山口新聞鋪
(電話四百十番)

[illegible]

[illegible]